

第 120 回 地域まちづくり推進委員会ヨコハマ市民まち普請事業部会 会議録

|              |   |
|--------------|---|
| 日時           | 令和 8 年 2 月 24 日 (火) 14:00~15:30   |
| 開催場所         | 横浜市役所 18 階会議室 なみき 6 ~ 8   |
| 出席者<br>【敬称略】 | 部会委員) 川原部会長、植松委員、小川委員、國廣委員、後藤委員、鳥海委員、<br>肥後委員、松村委員<br>事務局) 横浜市：古檜山部長、中尾課長、安藤係長、今村、市川<br>市民セクターよこはま：加世田、山田<br>横浜市住宅供給公社：高橋、土屋、岡部、鈴木  |
| 開催形態         | 一部非公開   |
| 議題           | (1) 2次コンテスト振り返りについて (資料 1-1、2、3)<br>(2) まち普請 20 周年の振り返りと今後について (資料 2)<br>(3) 令和 8 年度事業スケジュール (案) (資料 3)<br>(4) その他  |
| 報告           | (1) 令和 7 年度整備状況について (資料 4)<br>(2) 令和 7 年度広報改善について (資料 5)<br>(3) 令和 7 年度広報媒体での放映・掲載について (資料 6)<br>(4) まちづくりコーディネーターの謝金について (資料 7)<br>(5) 平成 30 年度整備施設 「230cafe(つみれカフェ)」について (資料 8) |

議事

|      |   |
|------|---|
| 事務局  | <p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 2次コンテスト振り返りについて</p> <p style="text-align: center;">-非公開-</p> <p>(2) まち普請 20 周年の振り返りと今後について</p> <p>「(資料 2) まち普請 20 周年の振り返りと今後について」を用いて説明</p>  |
| 後藤委員 | <p>まち普請事業は他の部署が持つ福祉関係の助成金ではカバーできないところを支援できているということをもっと明記しても良いと感じた。また、まち普請整備団体の活動領域をまとめられており、活動に着目されているが、ハードとして、どんな施設を整備したかということをもっと丁寧に書いても良いと思った。まち普請ならではの施設整備の在り方があると思う。どんな場所をどう整備して、どういう場になったかということは整理できると思った。社会的意義は評価してもらっていると思うので、空間的な部分をもっと記載しても良いと思う。</p> |

|      |   |
|------|---|
| 川原委員 | <p>宮ノ前テラスのように、民地から直接公園に入れるようになったといった、通常法律の下ではなかなかできないと思われていたことを、まち普請を使って突破できたという例もいくつかあったと思う。</p>   |
| 國廣委員 | <p>まちが衰退し始めるとこの町でなにをやっても無駄だなと思ってしまいがち。何かを始めれば、まちが変わっていくという雰囲気をもっと押し出したり、それを実現させたようなモデルになる人をもっとフィーチャーしても良いと思う。リーダーの方もいれば、事業の重要なポイントを担われている方も様々いると思うので、そういった方がどんなきっかけでまち普請を始めて、周りにどんな人たちがいて、どう町が変わったのかということにもっとスポットライトを当てて、次にまち普請を始める人のきっかけになるような切り口があっても良いと思う。</p>       |
| 川原委員 | <p>人にフィーチャーしてほしいという想いは自分もある。ただ、リーダーのあの人がいたから事業ができたという言い方はしたくない。ホワイト不動産、ホワイトアーキテクト、ホワイト地主といった、地域に想いを持ってビジネスをやられている方のバックアップもあってこそまち普請ができたというケースも多いと思う。そういった方が活躍することでまちが変わっていくということを整理できると良いと感じた。</p>  |
| 國廣委員 | <p>同じような立場の方で座談会をやって、その内容を展開するのも良いかもしれない。地主の意識改革は非常に重要だと思う。</p>   |
| 川原委員 | <p>地域のため、社会課題の解決のため、というより、自分の趣味や夢の実現のためにまち普請を始めて、その延長線上で地域の人との関わりが整理されていき、いつの間にか大きなまちづくりに繋がっているといた人が多いのではないかと思う。CASACOの代表や Co-coya の代表もそうだと思う。そういった部分がフィーチャーされ、整理できると良いと思う。</p>   |
| 植松委員 | <p>アド街ック天国でたまプラーザが特集され、100 段階も取り上げられていた。市民がよく見る媒体にまち普請の広報を差し込めると良いと思う。こんなことでもまち普請に応募できるんだということを上手く広報として打ち出せると良いと思う。</p> <p>また廃止施設や未活用施設の内容については少し気になった。廃止を少しでも減らしていくために何をしていけばいいのか、様々な要素はあると思うが、後継者がいないことは大きな課題だと思うので、そこまで見通して育てていく方法や、こんな手立てもあるよということを伝えていきたいと感じた。</p> |
| 川原委員 | <p>今回の生麦の提案やこまちカフェといった、次の若い人や新しく参加する人が裁量を持って活躍できる場所を新たに拡大できているのは素晴らしいことだと思った。まち普請の次の課題である、活動や居場所を継いでいくという観点について、少しずつ</p>  |

|             |  |
|-------------|--|
| <p>國廣委員</p> | <p>芽が出てきている活動だと思う。</p> <p>まち普請の一期生や経験者が使える支援や、新たな少額補助金があってもいいと思う。コミュニティ施設の限界として、顔の見える範囲は 30 人くらいだと言われている。一箇所の施設でスペースも変わらなければ、繋がれる範囲は 30 人程度が限界になるので、施設を広げる、スペースを広げることは、新たな活動や担い手が参入するきっかけとして有効だと思う。</p>  |
| <p>松村委員</p> | <p>資料 2P12 の内容についてどのように考察すれば良いか教えてほしい。当初の整備団体は担い手が見つからず、高齢化が進んでいるという現状があり、最近の整備団体は世代交代の工夫があらかじめビルトインされているという分析で良いか。世代交代が課題としてあるのであれば、その工夫の部分进行分析していけば良いと思う。</p> <p>一方で、あるリーダーによって活動が始まったのであれば、同じ考えの別のリーダーが活動を引き継ぐこともあると思うし、場所は同じだけど全く違う活動をしたいというリーダーがいて、活動が変わっていくこともあると思う。「その場所」「その団体」の世代交代に固執して課題認識してしまうと、考え方がとても狭くなってしまおう。まちの発展を見据えて、活動が持続していくために、どう支えていくかという視点で考える方が良いと思う。</p> <p>また、違う切り口として、ジェンダーの切り口は入れていった方がいいと思う。女性の活動団体でひどいじめのようなものを地域から受けてしまっている団体の話も耳にする。地域社会自体が男性社会であり、力を持っている人が男性であることが多い。女性たちがその中で活動をやりきったことで、素晴らしい活動として評価されていることが多いが、まちの構造自体が変わらないといけない。新たな活動を始めた人に対して、ジェンダーや国籍などを理由に当てつけやひどいことを平気で行う地域がまだまだあると思う。こういった考えはそのまま世代交代していきたくないし、今までのネットワークをそのまま活用していいのか改めて考えても良いと思う。新しいやり方でアプローチしていく必要があり、まちづくりの軸をしっかりと考えていく必要があると思う。</p> |
| <p>川原委員</p> | <p>まち普請は横浜市の事業の中でもそういった課題へのアプローチがしやすい事業だと思うので、「子育てプラス」のように、そういったテーマを優先的に応援していきまますという姿勢を打ち出すことも方法としてはあるかもしれない。</p>  |
| <p>小川委員</p> | <p>審査項目を増やすことは問題ないか。そういった項目を審査に含めることは、この時代では全く不思議なことではないと思う。</p>   |
| <p>川原委員</p> | <p>審査項目に入れてしまうと、その課題を抱えていない地域の判断が難しくなってしまうことは懸念される。頑張ろうとしている団体をどう支えていくかは今後も考えて</p>   |

|             |  |
|-------------|--|
|             | <p>いくと良いと思う。</p>   |
| <p>國廣委員</p> | <p>補助金は使う側の能力も重要だと思う。女性の活動者に対するいじめといった話もあったが、そもそも女性で起業する人がなかなか出てこられない地域もあり、地域格差がある中で、そういった地域には事業力自体が身につけていない現実もある。そういった課題に対し、まち普請の補助金としてできることがあるのか、現実的な視点で考えていく必要があると思った。</p>  |
| <p>川原委員</p> | <p>同じような想いを持った人を繋ぎ、地域を超えたネットワークづくりを支援することがその問題を乗り越えていくきっかけになるかもしれない。</p>   |
| <p>國廣委員</p> | <p>まち普請事業はいきなりチームを作ってエントリーして突破するには難しい事業だと思うので、創業支援等ではよくある仕組みだが、その段階にある人たちが様々な方の話を聞けるような支援をするということも大事かもしれない。</p>  |
| <p>小川委員</p> | <p>私は市民協働やNPOに近い分野で活動をしており、最近のNPOの状況として、一つの団体の中でなんとか頑張り切れという風潮になりがちだと感じている。一方で、まち普請は団体の建付けが曖昧で、アンブレラ形式で色んな人がどんどん集まって活動に入っていく形式が多く、市民協働の考え方とは大きく違うと感じていた。そういった良さをもっと打ち出してほしい。</p>   |
| <p>鳥海委員</p> | <p>「こういった団体がまち普請にエントリーしているから応援してほしい」ということを市から区に下ろしていただき、その先のケアプラザやコミュニティハウスにも伝えていただくことで、区が応援しているということが地域の方たちにも伝わり、団体への接し方がかなり変わってくると思う。得体の分からない団体に対する疑心暗鬼の気持ちが原因の一つだと思うので、その一言が行政から入るだけでも有効だと思う。</p> <p>また、書類が多いという意見もあったが、このレベルの資料の準備ができない団体はそもそも活動が上手くいかないと思う。金額も大きく、まち普請で採択されてからの活動の方が大変。</p> |
| <p>小川委員</p> | <p>後半の意見については半分同意ではあるが、想いがあるものの、しっかりとした軸が持っていない人もいると思う。そういった方たちに対しどうやりたいことを実現させて、成長させてあげるかも重要な視点だと思う。</p>  |
| <p>鳥海委員</p> | <p>500万円だからハードルが高くなってしまえば、30万円や50万円といったステップアップの補助があってもいいかもしれない。</p>  |

|      |   |
|------|---|
| 川原委員 | <p>定型的な提案に対してはミニまち普請のような落としどころを設けるということは過去でも議論されてきた。</p> <p>また振り返り資料にもっと書き込んでほしいと思ったこととして、伴走支援でやってきた支援が、市民事業を成立させるための根幹でもある「信用の担保」と「地域調整のサポート」を大きく担っていたのではないかということ。そこはもっと書いてほしいと思った。</p>  |
| 松村委員 | <p>1次と2次の間で伴走支援を行い、試行錯誤を行うことで、計画の熟度が高まってくるが、半年そこらではなかなかやり切れず、熟度が上がらないケースもある。そういった意味では、計画が熟しきらないまま、活動をスタートさせてしまっている団体もあると思う。伴走支援では、試行錯誤の中でやりたいことの熟度を上げていくことが重要で、もしかしたら100万円でもできるかもしれないし、助成なしで始める方がよいケースも出てくるかもしれない。そういった試行錯誤の先に「やはり500万円が必要だからまち普請に挑戦する」という建付けになっている方がふさわしいと感じた。</p> |
| 國廣委員 | <p>伴走支援だけ残して、まずはやってみるようなトライアル支援をするのも良いと思った。</p>   |
| 後藤委員 | <p>既存の支援制度の中でも、少額支援などはすでにあると思うので、それをメニューとして見える形で整理してあげると良いのではないかと思う。</p>  |
| 國廣委員 | <p>グループが試行錯誤できる理由として、まち普請という強制力があるのがあるのかもしれない。</p>  |
| 川原委員 | <p>スクールのようなイメージかもしれない。スクールでもありつつ、ファミリーとしても繋がりができていけばいいと思うし、そういった良さを言葉にできると良い。</p>   |
| 植松委員 | <p>これまでのまちづくり活動は奉仕の意味合いが強かったが、今の若い方は犠牲や奉仕という考え方はあまりなく、自分がこの場所に貢献している、役に立っている、そうするために協働しているという感情に重きを置いていることが多いと学んだ。そこをどう後押しできるかも重要だと思った。</p>   |
| 事務局  | <p><b>(3) 令和8年度事業スケジュール (案)</b><br/> 「(資料3) 令和8年度事業スケジュールについて」を用いて説明</p> <p><b>(4) その他</b><br/> なし</p>  |

|  |  |
|--|--|
| <p>植松委員</p> <p>川原委員</p>  | <p><b>3 報告</b></p> <p><b>(1) 令和7年度整備状況について</b><br/>「(資料4) 令和7年度整備施設の状況について」を用いて説明</p> <p><b>(2) 令和7年度広報改善について</b><br/>「(資料5) 令和7年度広報改善について」を用いて説明</p> <p>区役所サイネージは各区に特化した内容で流していただけると良い。</p> <p><b>(3) 令和7年度広報媒体での放映・掲載について</b><br/>「(資料6) 令和7年度広報媒体での放映・掲載について」を用いて説明</p> <p><b>(4) まちづくりコーディネーターの謝金について</b><br/>「(資料7) まちづくりコーディネーターの謝金について」を用いて説明</p> <p><b>(5) 平成30年度整備施設「230cafe(つみれカフェ)」について</b><br/>「(資料8) 平成30年度整備施設「230cafe(つみれカフェ)」について」を用いて説明</p> <p><b>(6) その他</b><br/>まち普請事業が卒論や修論の対象になっている場合は、そういった成果物をもって、第三者的な目線でどのように見られているかも参考にすると良いかと思う。</p> <p style="text-align: right;">以上</p> |
| <p><b>資料</b></p> <p>(資料1-1) 令和7年度2次コンテストアンケート概要</p> <p>(資料1-2) 令和7年度2次コンテスト改善点等</p> <p>(資料1-3) 令和7年度2次コンテスト投票結果</p> <p>(資料2) まち普請20周年の振り返りと今後について</p> <p>(資料3) 令和8年度事業スケジュールについて</p> <p>(資料4) 令和7年度整備施設の状況について</p> <p>(資料5) 令和7年度広報改善について</p> <p>(資料6) 令和7年度広報媒体での放映・掲載について</p> <p>(資料7) まちづくりコーディネーターの謝金について</p> <p>(資料8) 平成30年度整備施設「230cafe(つみれカフェ)」について</p> |  |